

2017.10 Vol.462

関西大学通信

# Kandai Style



## 関大生の芸術

# 文化会 書道部



夏合宿  
in鳥取!



書道部では、年2回開催される書展に向けて日々練習に励んでいます。普段の練習だけでなく、合宿や部員旅行などのイベントも盛りだくさんです!

また、今年2回目の書展が12月22日(金)~24日(日)にかけて「エル・おおさか」(大阪市)にて開かれますので、お時間のある方はぜひお越しいただき、書道部の活動の成果をご覧ください!

「エル・おおさか」(大阪市)にて開かれますので、お時間のある方はぜひお越しいただき、書道部の活動の成果をご覧ください!



夏合宿での講義風景▲

前期書展!!▶



◀新歓コンパ▶

文化会 書道部 主将  
西田 翔悟 さん  
(政策創造学部 3年次生)



▲春のパネル展示会会場の様子



漫画同好会、通称「KUMD」の強みは、何といても創作活動の自由度の高さです。初心者からプロを目指す学生まで、さまざまな学生が所属しているKUMD。ここでは、普段絵を描く機会が少ない学生でもサークル活動の一環として伸び伸びと作品を作ることができます。その活動は主に3つ!

◀『PM1:00』  
3年次生

まず、年に3回発行の会内誌『ビーグル』の制作。内容は会員おのおのが描いた、ジャンルを問わない漫画やイラストなど! その時々には描きたい人が描きたいものを描くというスタンスで発行しているので、クオリティの高いものになっています。次に、統一学園祭で販売している『スーパービーグル』の制作。内容はビーグルと同じですが、きちんと製本を施した「まさに本!」という出来栄です。

最後に、年2回開催しているパネル展示会の実施。来てくださった一般の方々にアンケートなどを用意し、パネルの評価などをしてもらうことで、会員のやる気につながっています。このように、総勢120人からなるKUMDは皆さんの思う以上にアクティブに活動しています!

漫画同好会  
平野 琴子 さん  
(社会学部 2年次生)



▲『あの子はどこへ』2年次生



▲『セーラー服の女の子』1年次生

漫画同好会  
KUMD

# 関大生の芸術

芸術の秋にちなんで今号では、文化会と同好会4団体の協力を得て、自由に誌面を制作してもらいました。さまざまな個性で彩られた「特集」をお届けします。



私たち能楽部は、日本を代表する伝統芸能である能楽の稽古をしています。能楽と聞くと古くさい芸能というイメージが浮かぶかもしれませんが、本質はミュージカルやロックと同じようなものです。私の家は能楽を生業としており、私自身もクラブ活動以外に、プロとして能楽の活動をしています。クラブ活動としての能楽部は日々楽しく、能楽に親しみをもって活動しています。6月に開催される関西学生能楽連盟春季大会と12月に開催される関大能で、日々の活動成果を披露しています。上年次生からの入部も受け付けていますので気軽にお越しください。

文化会 能楽部 主将  
中田 一葉 さん  
(文学部 3年次生)

文化会  
能楽部

関西大学  
高槻放送局



関西大学高槻放送局(KTB) 局長  
近藤 陽 さん  
(総合情報学部 3年次生)

私たち関西大学高槻放送局(KTB)は、映像と放送の2つをメインとして活動するサークルです。映像は、年に3回行われる上映会に向けて、ボイスドラマやバラエティー作品、ミュージック・ビデオ等の幅広いジャンルの作品を制作しています。また放送は、お昼の学内放送やアイスアリーナのアナウンスを担当しています。サークルに所属する局員の大半は初心者ですが、各講習会を通して、編集・音響・照明・アナウンスの技術を日々磨いています。





## 鉄道業界／技術者

西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)

### 石元 裕貴さん

広島県立大門高等学校出身  
2011年理工学研究科修了

さまざまな人の考え方に触れることが、  
新たな価値観の形成につながります。

西日本旅客鉄道株式会社の本社に勤務する石元裕貴さんは、総合職で入社して7年目になります。入社後すぐに車両所に配属され、約1年半、車両の維持管理業務に従事し、1年間の養成期間を経て、在来線の運転士を務めました。再び約2年間の車両所勤務を経て、現在は鉄道本部技術開発部に所属しています。

技術開発部では、約20人のプロジェクトチームで、将来の鉄道システムを開発しています。既存のシステムのメンテナンスには多大な人的労力と手間が掛かるため、今後の労働人口の減少も考慮して、安全性を向上させながら効率的に列車を制御できるシステムを構築しているそうです。

「西日本を活性化させる大きな仕事がしたい」という思いと、「快適さや安全性が目に見えて評価され、お客様の声も直接届く鉄道会社で働きたい」という思いから現職を志望しました。社会に貢献できる仕事がしたいという熱い思いがあったため、企業研究を徹底的に行い、面接では自分の力をどのように仕事に生かせるかを最大限にアピールしました。特に、大学時代に学園祭の実行委員をした経験が高く評価されたそうです。模擬店の担当でしたが、店舗数や人の配置、資金集めや交渉など、学園祭を成功に導くための統括力が身に付いたのではと自身を分析します。

現在はチームの中心として、他部署と連携をとり、新システム導入のための仕様やルールを作成しています。多くの関係部署に合意形成をとるのに苦労することもあるそうですが、いい経験ができていますのでやりがいを感じるのだとか。

「車両所勤務や運転士などさまざまな職種を経験したことが、新しいシステムの構築に生かされていると思います。さまざまな観点から見た事象を整理して総合的に判断し、最適な在り方を考える能力が求められていると感じます」と石元さん。

「関西大学の良さは、たくさんの方がいるので、さまざまな性格の人と出会えることです。さまざまな考え方や価値観を受け入れる経験は学生時代だからできることなので、進んで他学部の人と交流を深め、成長していいですね」とエールを送ってくれました。

#### ある1日のスケジュール

- 9:00 出社・メールチェック
- 9:30 社内打ち合わせ
- 10:30 資料作成
- 12:00 昼食
- 13:00 システム開発内容の精査
- 15:00 会議
- 17:00 議事録作成、翌日の準備
- 17:45 退社



必須アイテムは、資料を入れたファイルとアイデアノート、スケジュール管理用の手帳

# VIVA!!

## 学び易



文学部 総合人文学科

## 「アメリカン・スタディーズa」 井谷聡子 助教

### アメリカの歴史から「多面的視野」と「英語力」を学ぶ 「普通」という考え方の裏にある権力構造を見抜くクリティカルな思考力を養います。

井谷聡子助教が担当する「アメリカン・スタディーズa」は、アメリカの歴史をたどりながら、マイノリティー（社会的少数者）の視点からアメリカ社会をクリティカルに考察する授業です。秋学期の「アメリカン・スタディーズb」は、春学期の内容を踏まえて現代のアメリカを考える授業ですが、総括的な履修テーマは「ナラティブとしての歴史」。つまり、さまざまな歴史的な出来事をマイノリティーの視点でつないでいくと、「普通」だと思っていた出来事がそれまでとは異なった視点で考えられるようになることです。

アメリカで身体文化について研究してきた井谷助教は、スポーツや学問の世界でも一部の人が社会の中心となっていることで、多様性が失われていることを実感。主流から排斥された人々に関心を持つようになったことが、授業テーマ選定の出発点だそうです。帰国後、日本の歴史教科書でアメリカ史を調べても、マイノリティーのリーダーの活躍はほとんど紹介されていませんでした。また、多くの学生がアメリカに関する知識を持っていないことも知り、アメリカ史の表層に出てこない事例を取り上げたいと思ったそうです。

授業では、マイノリティーの人々の活動について、理論や解説だけでなく当時の様子を肌で感じてほしいと、映像を積極的に使用しています。そうすることによって、アメリカの実態がつかみやすくなると井谷助教は言います。その他、毎回の授業で、学生に質問を出し、レスポンスペーパーを提出してもらいます。授業内容を、現在のニュースや学生自身の生活とつなげ、自主的に物事を考える思考力を養う訓練を繰り返すためです。

井谷助教が所属する英米文化専修では、専門科目を英語で学べるように、英語中心の教育環境が整っているのが特長です。そのため、講義は日本語で行いますが、授業で使用する資料は英語で作成しています。これにより、学生は英語の意味を理解しやすく、留学生は英語で書かれた資料を読むと授業の概要がつかめるため、さまざまな学生が履修しているのだとか。「これから求められるのは英語と情報をつなげること。英語は意味を理解し、繰り返し学習することで実力が付くので、今後もバイリンガルの授業を進めていきます」と力説します。

課題は、全学年の学生が受講するため、英語力や予備知識に差があることです。そのため、オフィスアワーを設けて、不明点の質問や課題の準備、卒業論文の相談などに応じています。

「授業終了時には、英語だけの環境に身を置いても大丈夫という自信を持てるようになってほしい。また、物事の多面性や人々の多様性を、柔軟に広い視野から考えられる人になってほしい」と井谷助教は熱く語りました。



#### 井上遥さん(2年次生)

1年次から英米文化専修に興味があり、井谷先生の「知のパスポート」の授業を受けたのをきっかけに、この授業も受講しました。講義以外、全て英語なので必然的に英語力が身に付きます。授業で培った英語力を生かして、将来は英語の教師などの英語を使う職業に就きたいと思っています。



#### 古園翔大さん(3年次生)

以前からジェンダー学に興味を持っていました。アメリカ文化にも関心があり、井谷先生の授業では両方を学ぶことができます。マイノリティー問題をテーマに、その裏側にある真実にスポットを当てて解説してくれるので、物事を違う角度から見る能力が身に付いてきたと感じています。



文学部

#### 井谷聡子 助教

アメリカをさまざまな角度から見ることによって、多様な視点を身に付けることができる授業です。また今後、留学を考えたり、海外から帰国したばかりで英語力を維持したいと考えたりする学生や、海外からの留学生にも、しっかりと語学を学べる環境を整えていますので、ぜひ受講してください。





# 関大図書館の不思議、室原文庫

## —1,700点の書籍、手紙や「抵抗の旗」—

関西大学の図書館は蔵書数214万冊、年間利用者約75万人(他キャンパスも含む)という全国有数の設備と規模を誇りますが、個人の膨大な蔵書が寄付され、寄付者の名前などをつけた特別文庫が26文庫もあることはあまり知られていません。その一つ「室原文庫」は本学との交流が出来て今年で半世紀。蔵書には、国のダム造り政策に徹底抗戦した熊本県の市民運動家の反骨精神と、関大の研究者らの誠実さが込められています。

### ダム反対と蜂の巣城

図書館は千里山キャンパスの総合図書館(地上3階、地下2階、21,750平方メートル)を中心として高槻キャンパス、高槻ミュージックキャンパス、堺キャンパスにも設立。総合図書館はフロアごとに機能の異なる閲覧室があり、地下書庫には研究用図書などが配置されています。この中に26文庫があります。

その一つ、室原文庫を寄付したのは、故室原知幸氏。1953年(昭和28年)6月、九州の「筑紫二郎」の異名をとる一級河川筑後川は集中豪雨に見舞われ大きな被害を出しました。国はこの川の上流に治水対策として松原・下釜の2つのダム建設を計画。そこで室原氏を筆頭に地元住民らが「ダムの位置や治水計画上の科学的根拠に疑義がある」と反対運動を起こしました。

全国から多数の支援団体や市民が支援に駆け付け、大規模な紛争に発展します。室原氏の反対運動は実にユニークでした。「暴には暴」「法には法」と、ダム建設予定地に「蜂の巣城」と呼ばれるとりでを築いて抵抗する一方、82件に及ぶ訴訟を国などを相手に起こし、多彩な法廷闘争を展開しました。



▲千里山キャンパスの総合図書館



▲室原文庫

### 判決で負け、訴訟に勝った

しかし、とりでは行政代執行で“落城”し、法廷闘争にも敗れてダムは1973年(昭和48年)完成しました。ただ、その反骨精神は少しも揺るがず、法廷闘争も「判決では負けたが、訴訟には勝った」といわれるほど、精緻な理論闘争で国の理論を圧倒したといえます。

それもそのはず。室原氏は訴訟を弁護士任せにせず、自分で猛勉強したのです。読破した書籍は法律、社会経済、自然科学、工学など幅広い分野にわたりました。そして自ら先頭に立った蜂の巣城闘争の調査研究を第三者に依頼しようとし、半世紀前に面識もない関大のある法学者にたどりつきます。

### 関大の支援と学者の誠実さ

当時、法学部教授だった故桜田誉氏です。「九州にも優れた大学があるのに」と当初は戸惑った桜田氏でしたが、室原氏の人柄と誠意に心を動かされて現地調査を引き受けました。期間は5年の予定でしたが、結局8次にわたる現地調査などで10年の歳月を要し、参加した研究者は法・文・経・商・工・社の6学部延べ250人に達しました。考古学の泰斗、網干善教教授が水没予定地で縄文遺跡を発見するなどのおまけも飛び出すほどの徹底したものでした。

特定のスポンサーはおらず、研究者が自腹を切ったほか、当時の久井忠雄理事長や保護者で作る組織「関西大学教育後援会」の森本靖一郎幹事長(当時、現常任顧問)らが資金を調達して提供しました。こうしたご縁で書籍や反対運動に使った垂れ幕、書簡など1,700点の資料が、1973年(昭和48年)、関大に寄贈されました。

当時の毎日新聞は「蜂の巣城は沈んでも…不屈の闘争魂は残った。城主室原さんの文献、関大に永久保存」と大きく報道するなど、各紙がこぞって紙面を割きました。あなたも一度、いろいろな文庫をのぞいてみてはいかがでしょうか。



▲ダム反対の垂れ幕など



化学生命工学部3年次生

# 別府 伸哉さん

楽しみながら努力すれば、きっと上達します。

化学生命工学部3年次生の別府伸哉さんは、文化会交響楽団に所属し、ビオラパートのリーダーを務めています。高校時代は吹奏楽部でトロンボーンを担当していましたが、大学でも音楽を続けたいと思い、入学時の新入生歓迎会で交響楽団の楽器体験に参加。ビオラを弾く先輩の姿に憧れて始めました。ビオラの音色は中低音で渋く、高音の楽器より好きだったそうです。それまで自分の楽器を持っていなかったので、買うならビオラをと思い立ち、アルバイトをして購入しました。

ビオラは演奏の雰囲気盛り上げたり、調子を変えたりできる楽器です。音色を通していろいろな楽器とコミュニケーションを取れることが楽しいそうです。

主な演奏会は、6月のサマーコンサートと12月の定期演奏会の年2回。演奏会の4カ月前から練習を始め、部員で話し合って決めた3曲を仕上げていきます。クラブ活動以外にも、自宅などで毎日のように自主練習をします。80人の部員中、ビオラパートのメンバーは10人で、パートの演奏練習は部室で行われます。リーダーの別府さんの指示の下、みんなで細かく打ち合わせをしながら音を合わせますが、それぞれの弾き方や個性などによってずれることがあるので、それを調整するのが難しいそうです。一方、うまくそろったときには達成感を得られるのだとか。以前は人に気配りをするのが苦手だったという別府さん。パートリーダーを務めるようになり、「演奏は周りに気を配らないと成り立たない」ことに気付き、メンバー一人一人に目を向けるよう努めたそうです。

別府さんは、1年次の夏頃から「3年次にはパートリーダーになる」ことを目標にしていたため、勉強とクラブを両立しようと、計画的に1、2年次で修得できる単位を全て取りました。今後は4年次の12月の定期演奏会まで交響楽団に所属する予定で、大学院への進学も視野に入れているそうです。将来は、交響楽団で培った「人をまとめる力」を生かし、周りの人から感謝される人になりたいとのこと。

「勉強とクラブ活動の両立は大変なことも多いですが、楽しみながら努力すれば上達するのが早いと思います。交響楽団に入部して、一緒にがんばれるたくさんの仲間ができたことがうれしい。一生の付き合いになると思っています」と輝くような笑顔で話してくれました。



ビオラパート部員  
(左から3人目が別府さん)

次回は、別府さんからのご紹介で福留耀さん(法学研究科M1)が登場。お楽しみに!



# Shinya Beppu

# 学部・研究科ピックアップ

## 法学部／法学研究科

### 歴史的視点を大切にしたい

日頃、学生諸君と話していると、20世紀後半期の同時代史について（関心はあれど）基礎知識が乏しいという印象を問々受ける。日本についても世界についても、である。20世紀前半期さらに19世紀18世紀…といった近現代史についても同様（なおさら?）だ。だが、社会の諸領域で現在生起しているさまざまな問題を考える際、「歴史的視点」は不可欠である。「歴史離れ」で有名だったアメリカ社会科学界でさえ、ある時期から（少なくとも一部では）歴史的視点の復権もある。市民の常識として身に付けたい。  
（学生相談主事 森本哲郎教授）

## 政策創造学部／ガバナンス研究科

### 学部創立10周年記念行事

4月には北川真也先生（三重大学）と岩下明裕先生（北海道大学）をお招きし「境界・移民・主権」をテーマにした研究会を、6月には、「コンゴ動乱と国際連合の危機」を公刊された三須拓也先生（東北学院大学）をお招きしての合評会に加え、「タイ地方行政能力向上プログラム」を事例とした日本の途上国法政策支援について、永井史男先生（大阪市立大学）をお招きした講演会を実施しました。12月には、大阪の都市問題をテーマにしたシンポジウムを計画中です。  
（国際アジア法政策学科長 安武真隆教授）

## 文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

### 東アジア文化交渉学会での活躍

東アジア文化交渉学会第9回国際シンポジウムが、2017年5月13、14日に北京外国語大学で開催されました。東アジア文化交渉学とは、東アジアにおける種々の文化事象を、「交渉」「還流」「周辺」という視点から捉えようとするもので、本研究科で日々取り組んでいる学問領域です。東アジア文化交渉学会は、伝統的な学問の枠組みを超えて研究成果を発表できる国際学会であり、今年もさまざまな国や地域からの参加がありました。本研究科からも多数参加し、基調講演や研究発表等を行いました。  
（東アジア文化研究科 奥村佳代子教授）

## 外国語学部／外国語教育学研究科

### 翻訳をとらえる情報空間

われわれの情報空間の多くは翻訳によって支えられています。日常目にするニュース、広告、雑誌、パンフレット、映画、ネット、スマートフォンの情報から、実は大学で勉強する学問に至るまで、あらゆるジャンル・分野において翻訳が介在しています。そこで外国語学部では、さまざまなジャンルの翻訳を一緒に行き、われわれの情報空間を支える言語のカラクリを一緒に考えます。また外国語教育学研究科では翻訳を学際的に分析し異文化コミュニケーションとしての翻訳について多角的に検証する研究を行っています。  
（河原清志教授）

## 経済学部／経済学研究科

### 21世紀のグローバル人材

今日に至るまでの日本の経済成長は、世界との関係なしに語ることはできません。その中で、これまでは国際貿易が発展の推進力でした。しかし21世紀になると、今度は単なる輸出入という関係を超えて、一つのモノを作り出すために世界の企業やそこに住む人々と協調・分業することで、共に発展することが重要となっています。経済学部では、このように世界と関わり、共生できる人材を育むための授業やプログラムをますます充実させています。  
（副学部長 後藤健太教授）

## 人間健康学部／人間健康研究科

### ボクシング世界王者誕生!

本学部一期生の寺地拳四朗選手が、WBC世界ライトフライ級タイトルマッチ初挑戦で世界王座を獲得しました。在学中は千里山と堺を往復しながら国体で優勝するなど、文武両道に励んでいました。これからも無敗記録を伸ばし、防衛記録にチャレンジする勇姿を楽しみにしています。  
（村川治彦教授）



各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 商学部／商学研究科

### 「会計」に強い商学部生を目指して

商学部では「英語と会計に強い」ビジネスリーダーを養成することに力を注いでおり、公認会計士受験支援委員会は、商学部生に対し、日商簿記検定2級に合格できるように、さまざまな支援を行っています。今秋も大原簿記専門学校と連携した「答案練習会」を実施します。また「簿記コンテスト」を開催し、成績上位者に対して表彰を行っています。平成28年度公認会計士試験では、商学部からは、3年次生2人、9人の卒業生、合計11人が見事難関試験を突破し、商学部は今後も積極的な学生支援をしていきます。  
（岡照二准教授）

## 総合情報学部／総合情報学研究科

### 七夕祭りに参加

高槻青年会議所主催の「七夕祭り〜光でつなぐ絆〜」が7月7日に上宮天満宮にて開催されました。本学部の井浦崇准教授のゼミ生が要請を受け映像化した摂津峡・今城塚古墳等の幻想的なプロジェクトマップは大好評で、大学と地域社会との連携を深めることができました。  
（副学部長 林勲教授）



## 社会学部／社会学研究科

### 大阪刑務所の見学

社会学部の「法と心理学」のゼミで大阪刑務所（堺市堺区）の見学に行ってきました。このゼミでは、刑事裁判における人間行動の問題を扱っていますが、そのなかで繰り返し出てくる「懲役」が具体的にどんなことを意味しているのかは、教室の説明だけではピンときません。刑務所の職員の方々にご案内いただき建物の中を歩き、工場や房（被収容者の居室）を見せていただきました。最後の質疑応答では活発に質問が出ました。学生たちにとって積極的な学びの機会となったようでした。  
（教学主任 藤田政博教授）

## 社会安全学部／社会安全研究科

### 社会安全実践演習の実施

本年度も昨年度に引き続き、社会安全実践演習（危機管理本部運営）を7月31日、8月1、2日の3日間の集中講義で実施しました。本講義は、災害が発生したことを想定し、被災市の災害対策本部や消防、建設、物資、社会福祉協議会等の立場から、図上演習を行うというものです。  
（永田尚三准教授）



## 専門職大学院トピックス

### 臨床心理専門職大学院

#### 心理職の新たな国家資格

2017年9月に公認心理師法が施行されました。公認心理師は、厚生労働省と文部科学省を中心に制度が検討され、わが国の心理専門職としては、初めての国家資格となるものです。この制度では、一部、学部卒業のコースが設けられているものの、学部・大学院を合わせた6年間の教育課程が求められています。この点で、大学院の2年間で養成されてきた臨床心理士（日本臨床心理士資格認定協会）とは異なっています。わが国の心理専門職養成は大きな転換期にさしかかっています。心理専門職への社会的な期待は高まるばかりで、本学でもこの期待に応えるべく、学部・大学院を通じたより専門性の高い教育を展開していきたいと考えています。  
（心理学研究科 心理臨床学専攻長 寺嶋繁典教授）

## 併設校トピックス

### 関西大学高等部

#### 梅田キャンパス“KANDAI Me RISE”で大阪フィールドワークを行いました。

本校は2014年にSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定され「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの育成」をテーマとし、探究活動を中心とした取り組みを行っています。1年生の生徒たちは身近なところから課題を発見し、それを探究する作法を学び、グループで課題解決の活動を行います。2年生では個人のテーマになり、その課題について日本の強みとともに海外との比較をしながら、グローバルな視点で探究し、研究論文を書いていきます。2017年6月20日に梅田キャンパス“KANDAI Me RISE”において大阪フィールドワークとしてSDGsの特別授業を行いました。株式会社マングラムをはじめとして、各課題ごとに講師にお越しいただき、ディスカッションを行いました。  
（教頭 赤松正人）



## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

### 先を見据えて

長い夏休みも終わり、秋学期も始まりましたが皆さんはどのような夏休みを過ごされましたか？夏休み期間中も大学ではさまざまなイベントがありました。8月5、6日のサマーキャンパスでは多くの高校生が千里山キャンパスを訪れ、広大で緑豊かなキャンパスの中、将来の学生生活に大きな期待と希望を持ったのではないのでしょうか。理工系三学部では、サマーキャンパスと同日に小・中学生を対象にしたサイエンスセミナーを開催しました。毎年好評のイベントで、将来の研究者の卵である子ども

たちが本年度も目を輝かせて実験に取り組んでいました。その他にも、北陽中学校2年生を対象とした理工系連携プログラムを開催し、約130人の中学生が多くの研究室に配属され、教員と大学院生との実験と交流を通じて理系の醍醐味を味わったことでしょう。また、理工系の三学部では夏休み期間中を利用した短期留学のプログラムも用意しています。本年度は、システム理工学部電気電子情報工学科のグローバル人材育成プログラムとして、約3週間台湾の中原大学、化学生命工学部化学・物質工学科のプログラムとして、10日間タイ王

国のチュラロンコン大学とタマサート大学を訪れ、英語力を身に付けるためだけでなく現地の学生と異文化交流し、グローバルな視点の大切さを学んだことと思います。さて、9月1日は防災の日でした。本学でも10月に関大防災Day2017を開催する予定です。千里山キャンパスの至る所で防災に関するイベントが予定されており、学生・職員・近隣住民の協働による炊き出しなど多数のイベントを用意しています。皆さん、ぜひ参加して防災に関する知識と心構えを学びましょう。  
（化学生命工学部入試主任 梅田聖准教授）

## Attention 大学からの重要なお知らせ

### 2017年度秋学期 学年暦 試験期間や休業期間などスケジュールを把握し、計画的に学生生活を送ってください。

月	学部	大学院	専門職大学院	留学生別科
11月	●大学創立記念日(4日)			●大学創立記念日(4日) ●日本語科目試験(22日～24日) ●日本語科目試験成績発表(29日)
12月	●冬季休業(26日～1月5日)			●冬季休業(26日～1月6日)
1月	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(22日) ●秋学期試験(23日～30日)	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(22日) ●秋学期試験(26日)	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(法務18日、臨床心理27日、会計30日) ●秋学期試験(法務19日～31日、臨床心理29日～31日)	●授業再開(9日) ●秋学期授業終了(31日)
2月	●入学試験(1日～8日)			●秋学期定期試験(1日～2日) ●秋学期成績発表(13日) ●日本語集中演習(13日～26日)
3月	●入学試験(3日～4日) ●卒業成績発表 ●在学生成績発表 ●在学生履修受付 ●卒業式(20日) ●春季休業(21日～31日) ●学年終 秋学期終了(31日)	●在学生成績発表 ●在学生履修受付 ●学位(修士・博士)記授与式(22日) ●春季休業(24日～31日) ●学年終 秋学期終了(31日)	●専門職学位課程修了者発表 ●在学生成績発表 ●在学生履修登録 ●学位(専門職学位)記授与式(22日) ●春季休業(24日～31日) ●学年終 秋学期終了(31日)	●日本語集中演習成績発表(7日) ●秋学期修了式(13日) ●春季休業(21日～31日) ●学年終 秋学期終了(31日)

※詳細はインフォメーションシステム等で確認してください。

# 関大トピックス

## 春学期卒業式・学位(修士・専門職)記授与式および学位(博士)記授与式・秋学期入学式を挙

千里山キャンパスで9月19日、春学期卒業式および学位(修士・専門職)記授与式と学位(博士)記授与式、秋学期入学式が挙行されました。

春学期学部卒業生は、188人、大学院博士課程前期課程修了生は23人、専門職学位課程修了生は8人、博士課程後期課程修了生は7人、論文博士は3人でした。

また、秋学期入学生は、総合情報学部1人、文学研究科12人、東アジア文化研究科17人、理工学研究科1人で、新たな学びをスタートさせています。



春学期卒業式および学位記授与式



秋学期入学式

## 留学生別科春学期修了式・秋学期入学式を挙

南千里国際プラザで9月8日、留学生別科春学期修了式が挙行されました。修了生23人は修了証書を手にとり、それぞれの道に向かって歩み出しました。

また、9月22日には、留学生別科秋学期入学式が行われました。インドネシア、韓国、台湾、中国、フランス、ベトナム、モンゴルの7カ国・地域から65人が入学。新入生たちは、新生活の第一歩を力強く踏み出しました。



春学期修了式



秋学期入学式

## 第56回全日本学生なぎなた選手権大会個人の部で体育会なぎなた部の大山清華さん、団体の部で男子が優勝

8月6日に津市芸濃町総合文化センターアリーナにて行われた、第56回全日本学生なぎなた選手権大会試合競技個人の部女子で大山清華さん(人4)が優勝しました。また、公開競技団体の部で男子が優勝し、インカレ3連覇を達成。

なぎなた部は、創部54年と長い歴史を持ち、男女共に好成績を残しています。関大なぎなた部の今後の活躍が期待されます。



写真提供：関大スポーツ編集局

## 卒業生の和田伸也さんが世界パラ陸上競技選手権大会2017で銅メダル獲得

7月14日～23日にロンドンで開催された世界パラ陸上競技選手権大会において、本学卒業生の和田伸也さんが男子5000m(視覚障害T11)で3位に入り、銅メダルを獲得しました。2年に一度開催される本大会において、和田さんは2011年より今回で4度目の出場。種目は異なりますが、全ての大会でメダルを獲得しています。今大会は40歳になってから初の公式レースで、これからも活躍が期待されます。



## 第3回 関西大学日本刀研究会の講座を開催

6月29日に第1学舎4号館古文書研究室で、第3回関西大学日本刀研究会の講座を同会長で刀匠の河内國平さんが行いました。講座では古刀といわれる貴重な文化財である日本刀も含め、9振りの刀が用意され、本学からは約30人の学生が参加。まずは鑑賞や刀に触れるためのマナー講座からはじまり、参加した学生は各刀の説明に熱心に耳を傾けました。実際に刀を手にとった学生は、緊張した面持ちで角度を変えて地鉄を眺め、刀の醍醐味である刃文を鑑賞しました。

講座の終わりにには、「刀の研究会を発足し、研究しているのは日本で唯一関大だけ。刀を見ると作られた時代やその時代背景が分かる。刀は一回見るだけでなく回を重ねるごとに面白さが分かってくるので、もっと学生に研究会や講座に参加してその魅力を知ってほしい」と河内さんは話しました。



## よもやまばなし 関大人 四方山話 ◆「がんばれ関西大学！」

社会安全学部特別任命教授 河田恵昭



大学においては、ほかの大学との競争はスポーツだけではない。研究・教育能力も競争である。去る7月8日から米国で開催された第42回自然災害ワークショップに参加した。全米各地から約500人の災害研究者が毎年集まる最大イベントである。私は1994年から出席しているから、24回も参加したことになる。最初、日本人は私一人だった。しかし、最近では日本セッションが設けられるまでに大きく成長した。日本からの参加者が増え、国際的には最多参加国である。そして、今

年は社会安全学部・同研究科から4人の教授が参加した。これは事前にしし合わせたわけではないが、偶然のこの陣容は、開催大学であるコロラド州立大学に次いで2番目の多さである。全員が自己紹介する全体会議で、「Kansai University」という発言が4度も聞ける。各地から参加した出席者は、日本では関西大学が災害研究の拠点であることを知る。国際的に高い評価が先行し、それが遅れて国内の評価につながるだろう。楽しいな学部・研究科に育ってきたことをうれしく思う。

## 編集後記

月並みながら、やはり秋は「芸術」。ということで本号の特集は「関大生の芸術」。ぜひとも彼らの「傑作」をご堪能いただきたい。月並みついでにもう一つ。「鉄は熱いうちに打て」。今年のタイガースの大健闘をみれば、この言葉の持つ意味も納得がいく。翻って、企業社会に有為な人材を輩出するというわれわれの使命からも、使い古された至言なれども肝に銘じなければと再確認した今日この頃である。

(広報委員・商学部教授 伊藤健市)



## 関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2017年10月2日(年9回発行)  
発行:関西大学広報委員会  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
電話:06-6368-1121(大代表)

## 今月の表紙



作者:文化会美術部 天野 成美さん(社3)  
作品名:「gardening」 テーマ:花

私が想像する「物語の世界の花園」というイメージで描きました。密度が高く、色の少ない作品ですが、私らしい世界観を表現できたのではないかと思います。今後も自分のイメージを絵にできるよう、技術向上に努めたいです。